

奈良県在宅就業支援事業受講生を対象とした
アンケート結果(第3回目)

2011.3.11

株式会社ワイズスタッフ

調査概要

- 調査対象者
奈良県 就労困難者在宅就業支援事業受講生 23名

- 調査期間
2011年2月9日～2月16日

- 有効回答数
18 ※今回は任意参加アンケートとして実施(回答率 78%)

- 回答者属性
今回の在宅就業支援事業は、奈良県在住のひとり親や障害者が対象。
ひとり親:12名(全体の67%)
障害者 :7名(全体の39%)
※1名が両方に該当

- 調査会社
株式会社ワイズスタッフ
※奈良県から委託を受け、株式会社ワイズスタッフが調査を実施しました。

基礎訓練に続いて、1ターム目の応用訓練・OJT終了後に行われた今回の調査結果から、以下のようなことがわかった。

訓練とOJTの同時実施により、受講生の負担感は大きく増加している ※P3-7参照

- 自宅訓練に「平日は毎日、休日も取り組むことが多い」という受講生が8割を占めるなど、コンスタントに学習に取り組む習慣がついている反面、平日の取り組みだけでは対応しきれない受講生が多くなっている。
- 前回(基礎訓練中・2010年12月)調査時と比べ、深夜に訓練に取り組む受講生が増加。今タームから、応用訓練が始まり、学習内容がレベルアップしたうえにOJTが加わったことで、その量的・質的ボリュームに受講生がかなり負担を感じている様子が浮き彫りとなった。

訓練によるスキルアップを実感することが、訓練参加へのさらなるモチベーションにつながっている ※P4-9参照

- 訓練・OJTの負担増に悩みつつも、それらの学習の成果を実感できている受講生が多い。またそのことが、次なる学習への大きな励みになっていることがわかった。
- 「PMの励まし」「ほかの受講生との交流」が訓練参加の大きな励みとなる傾向も依然強く、訓練継続のためにクラスルーム制が果たしている役割は大きい。

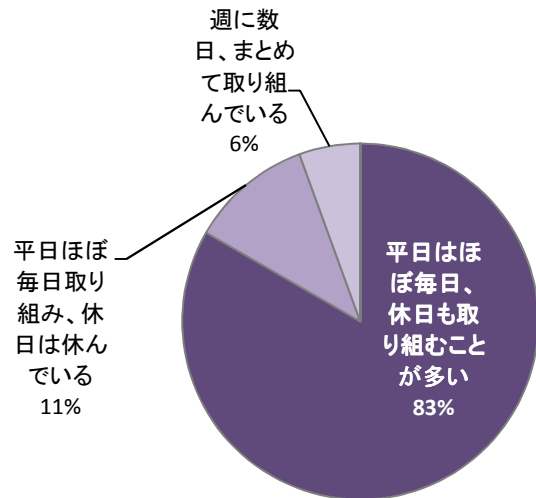
OJT参加が、具体的な就業イメージの付与、在宅就労への意欲増進に貢献している ※P9-12参照

- OJT参加への負担感は大きいものの、その内容には「満足している」という受講生が多い。また、それらの経験を通じて、
「具体的な就業のイメージがわいてきた」
「在宅就労をしたいという気持ちが大きくなった」
「在宅ワークへのプロ意識が理解できた」
など、受講生が就業への手ごたえを感じている様子がうかがえるコメントが目立った。
- 今回の訓練を受講したことで、変わったと思うところ(生活・知識・学習意欲・仕事意識など)があるかたずねると、全員が変化があったと回答。上記にまとめた就業への意識面に加え、学習、育児、家事、その他生活全般に対する姿勢が改善されるなど、様々な面での向上効果を確認することができた。

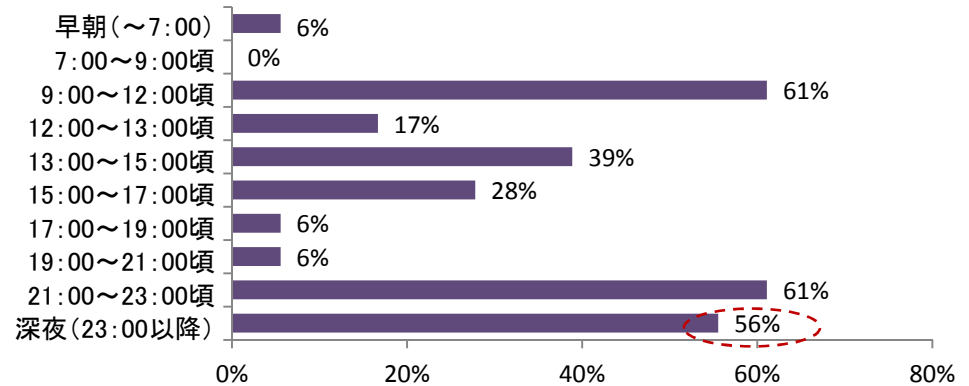
eラーニングによる基礎訓練の受講状況

- 自宅でのeラーニングの取り組み状況については、「平日は毎日、休日も取り組むことが多い」という受講生が8割以上を占めた。ほかの受講生も「平日はほぼ毎日(休日は休む)」「週に数日、まとめて取り組む」など、コンスタントに学習に取り組んでいる。
- 平日の取り組み時間としては、日中の午前中と、夜間21時以降が多い。昨年12月調査時と比べると、深夜(23時以降)の取り組み割合が増えている点が目立つ。

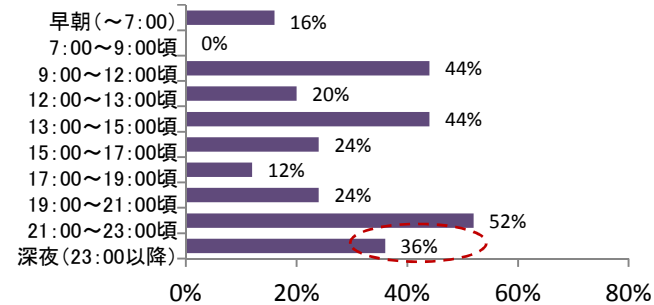
■ 平日・休日の取り組み状況 (N=18)



■ 平日の主な取り組み時間 (N=18、5項目まで選択可)



【参考】2010年12月時 (N=25)

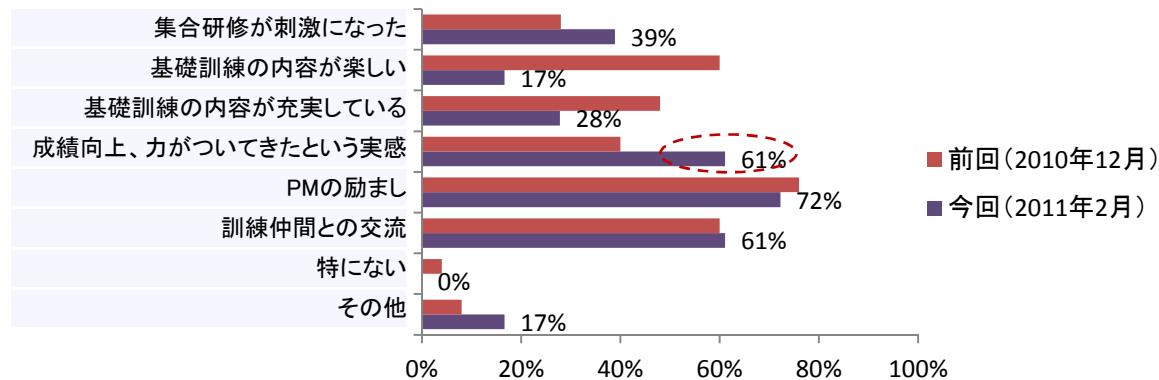


応用訓練参加の励みと障害

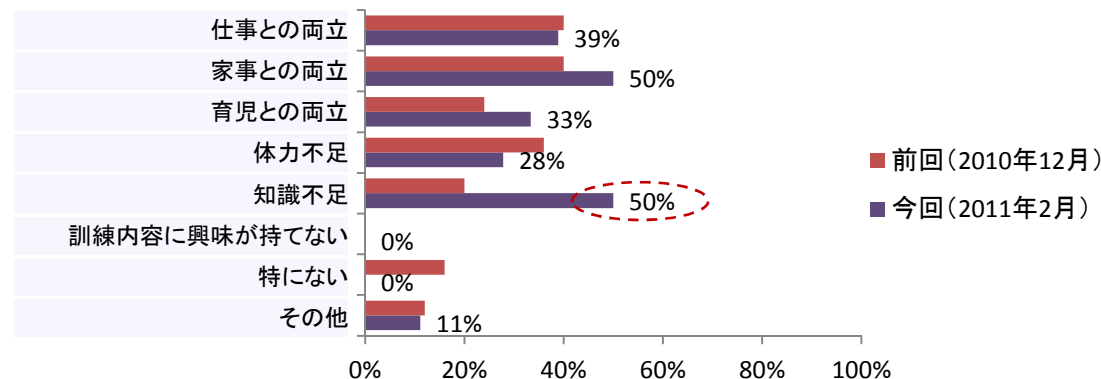
- 訓練期間が長くなるに従い、受講生自身がスキルアップの手ごたえを感じてきており、そのことが訓練参加の励みとなっている。
- そのほか、「PM(※)の励まし」や「訓練仲間との交流」が参加の励みとなっているという声も特に目立つ。今回のeラーニングでは、ネット上にバーチャルな教室＝「eクラスルーム」を設置し、受講生が孤独にならないような環境を整えており、この環境作りが、eラーニングの欠点(質問しにくい、孤独、さぼりがちになる等)を補うことに大きな効果をもせているといえる。
- 一方、受講の妨げになっていることとしては、「家事との両立」のほか、「知識不足」が半数にのぼった。基礎訓練から応用訓練の段階に進み、学習内容もレベルアップしたことに伴い、自身のスキル不足に気づく場面も多くなってきているようだ。

※PM:プロジェクトマネージャーの略。OJTを含む応用訓練では、より実務に近いイメージを持ってもらうため、基礎訓練までの「トレーナー」に代わってPMが訓練・OJT進行している。

■ 受講の励み (N=18)



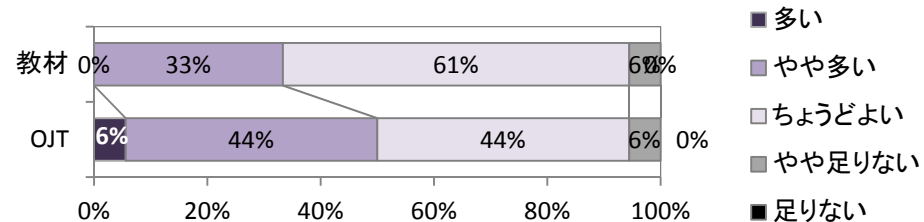
■ 受講の妨げ (N=18)



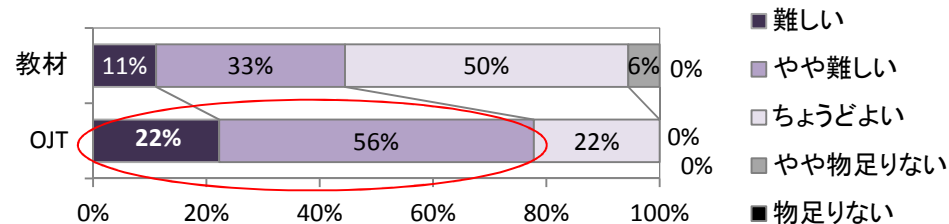
応用訓練・OJTに対する受講生の評価

- 応用訓練の教材のボリュームや難易度については、「ちょうどよい」という回答が半数前後を占める。一方、OJTについては、応用訓練と並行して行われることもあってか、ボリューム、難易度ともにやや負担が大きいと感じている受講生が多かった。
- 応用訓練、OJTともに、その内容については満足感を示す受講生が7割以上と多くなっている。

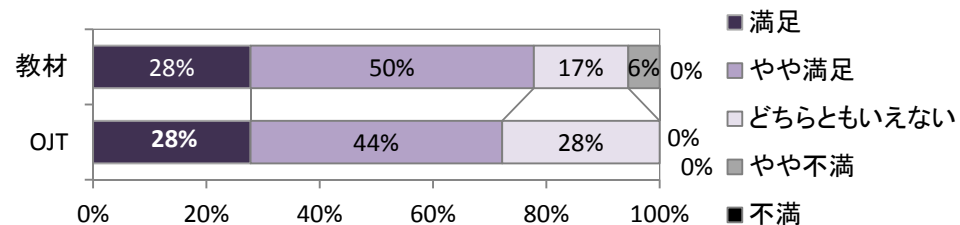
■ 量 (N=18)



■ 難易度 (N=18)



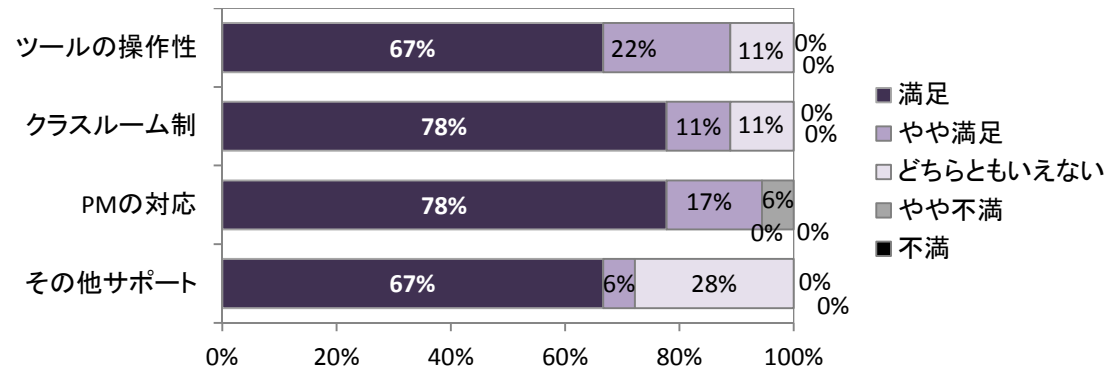
■ 内容 (N=18)



訓練ツール・サポート等に対する受講生の評価

- 訓練で使用するツールやサポートについては、全体に肯定評価が多い。
特に「PMの対応」「クラスルーム制」では9割前後が満足感を示した。

■ 受講生評価(すべて N=18)



応用訓練全般についての受講生コメント抜粋

- 応用訓練に関するフリーアンサーでは、「OJTと応用訓練との両立は時間的に厳しい」「OJTに入る前に、もう少し演習などで経験を深めたかった」など、OJTと応用訓練を並行して行う現行のスタイルについての意見が目立った。
- そのほかでは、PMの励ましや受講生同士のコミュニケーションがよい、などのコメントがあがった。

■ 応用訓練について気になること(以下は自由回答の整理結果、重複該当あり)

	人数	構成比(%)
訓練とOJTの両立は負担が大きい	3	16.7%
もう少しスキルをアップしてからのOJTを希望	2	11.1%
訓練についていけるか不安	1	5.6%
トレーナーの励ましが心強かった	3	16.7%
その他	3	16.7%

■ 自由回答例

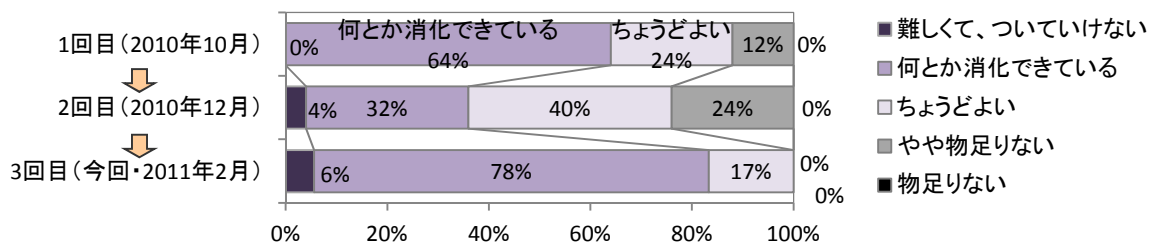
- OJTが始まると、そちらにかかる時間が多くなり、訓練時間がとりづらくなる。訓練手当を受け取るためには月30時間の訓練が必要となるが、OJTは訓練時間とは別になるため、ほかに仕事を持っている人にとってはかなりの負担になっていると思う。OJT期間中は訓練時間を少なくできれば、無理をせずとりくめるのでは・・・
- 受講生どうしのコミュニケーションの場として「休憩ルーム」があり、貴重な交流の場ともなっています。個人的な意見ですが、訓練を受けながらの家事・育児、他の仕事との両立、作業環境の工夫など、もう少し見やすく具体的なアイデアや情報交換の場があってもいいのではないかと、最近感じるようになりました。(例えば、受講生専用のブログなど)
- **応用訓練とOJTの両立はとても大変でした。**
応用訓練については、ひとつの課題を一回通りするだけでなく、二、三回演習を行い、しっかりと知識が定着してからOJTに進むことができればもっとスムーズに取り組めたのではないかと思っています。
また、OJTの内容については、やり終えた時の充実感はありませんが、体力的にも頭腦的にもかなりハードでした。(中略)
せっかくチャンスを頂いた訓練ですから、もう少しゆっくりと学習できればよかったですと思っています。毎月の「お手当」もとても有難いですが、ひと月の金額を減らしてでも一年ぐらいかけてじっくりと学習できれば知識も定着し、自信ができ、就職に繋がりがやすいのではないのでしょうか。
- 決められた期間内であることは承知していますが、**OJTに入るまでもう少し演習などで知識や経験を深めておきたかった**です。
訓練とOJTが重なったり、演習の結果(答え)を知る前にOJTに取り掛かったので不安だらけでした。
全体的に駆け足で息つく間もないペースでした。駆け足の部分とじっくり出来る部分とメリハリがあってもいいのではないのでしょうか。(自分の出来の悪さを棚に上げた発言申し訳ございません。)
- このまま、応用訓練についていけるか不安がある。
- PMの励ましとバックアップが大変心強かったです。

受講生の訓練への意識(1)

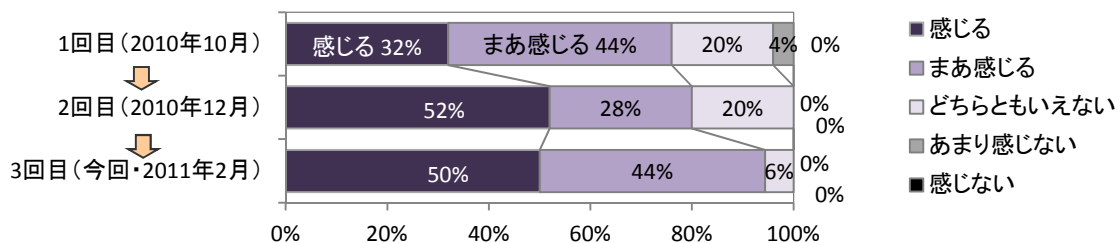
- 応用訓練を1ターム終了した時点で、受講生が訓練にどのような意識を持っている確認したところ、基礎訓練のときほどの余裕はないものの、受講生の多くが「訓練に何とかついていけている」と感じていることがわかった。
また、基礎訓練まではその内容に物足りなさを感じていた受講生もいたが、応用訓練ではそういった声はみられなかった。
- 在宅就労のスキルがアップしてきた実感を持つ受講生も、訓練期間を経るにつれ増える傾向がみられた。

■ 訓練への意識 (N=18)

「訓練についていけている」と感じているか



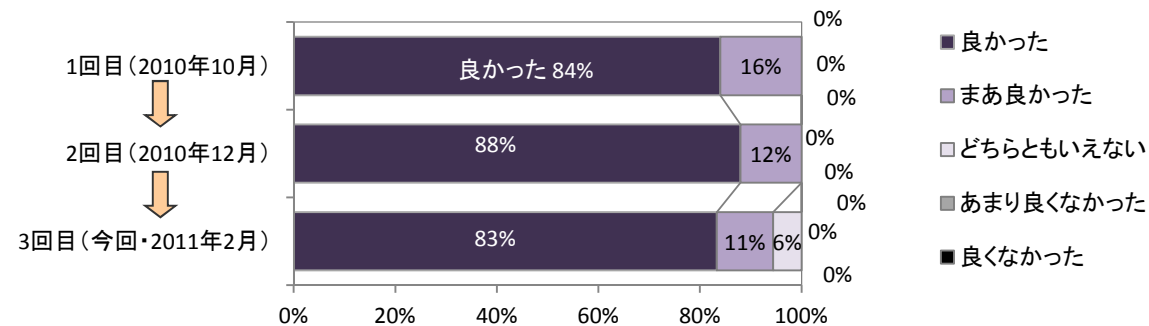
「在宅就労のスキルがアップしてきた」と感じているか



受講生の訓練への意識(2)

- 現時点で、受講生が訓練にどのような意識を持っている確認したところ、ほとんどの受講生が「訓練に参加して良かった」と評価した。

■「訓練に参加して良かった」と感じているか(N=18)

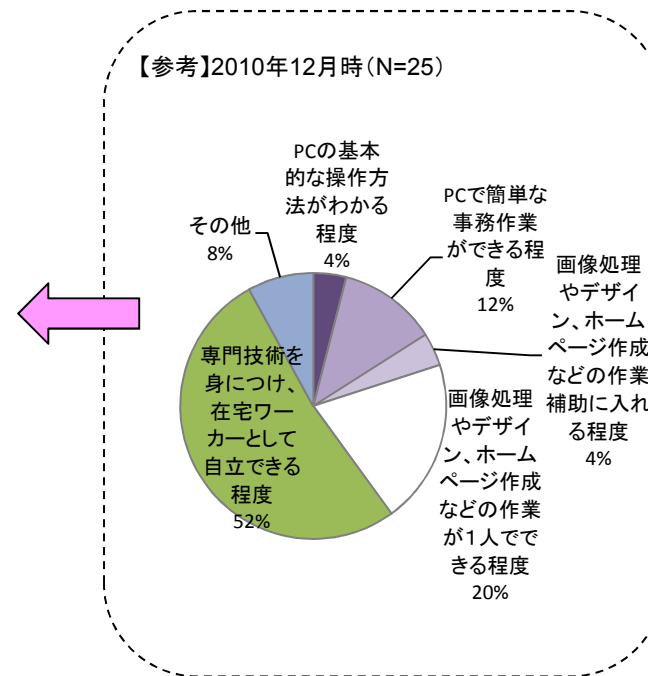
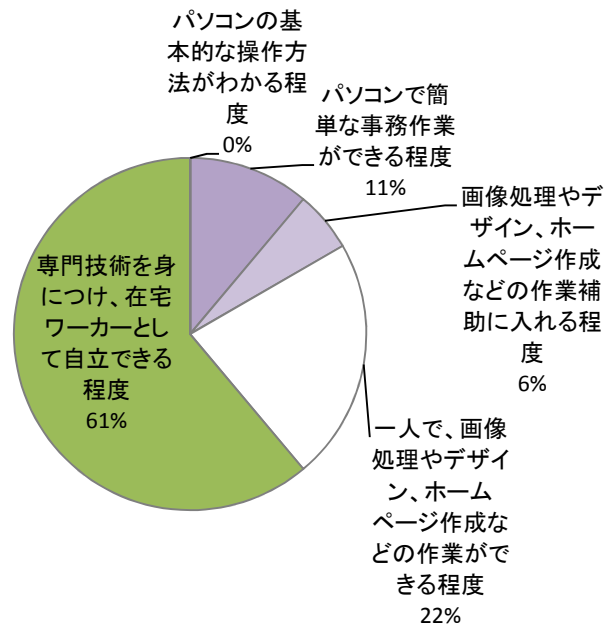


※今回「どちらともいえない」と回答した受講生からは、「訓練参加により子供と接する時間が少なくなり、子供が不満を漏らしている」といったコメントがあった。

訓練によるスキルアップへの期待度

- 今回の訓練でどの程度までスキルアップしたいと考えているかをたずねたところ、「在宅ワーカーとして自立できる程度」のスキルを身につけたいと考えている受講生が6割を占める。

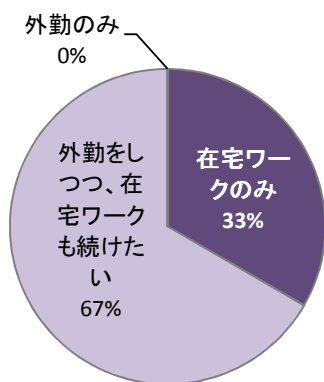
■ 訓練での習得を目指すレベル (N=18)



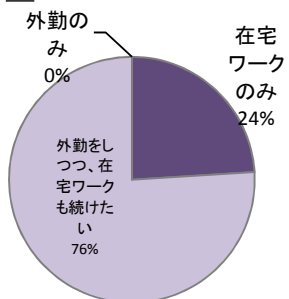
訓練受講後の就業イメージ

- 訓練終了後の就業について、現在のイメージを聞いてみると、「在宅ワークのみ」とした受講生は33%。残る67%が「外勤をしつつ、在宅ワークも続けたい」と回答した。「在宅ワークのみ」とした受講生の割合は、初回調査時より若干増えている。
- 外勤・在宅ワーク共に含めての就業時間希望は「7時間」が28%と多く、次いで「8時間」「10時間以上」が各22%で、8時間以上のフルタイム就業を希望する人は半数に満たない。希望収入は外勤・在宅をあわせて「15万円～20万円未満」「5万円～10万円未満」とする回答が各33%とやや多かった。また「できるだけ長く」「年金がもらえる時期まで」働きたいという回答者が大部分を占め、就業への意欲は高いものとなっている。

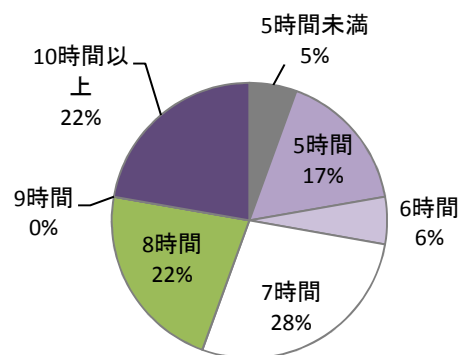
■ 受講後の就業スタイル希望 (N=18)



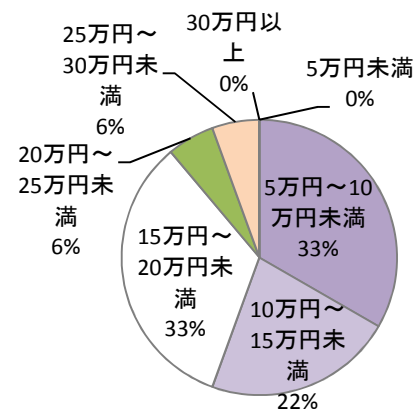
【参考】
2010年10月時
(N=25)



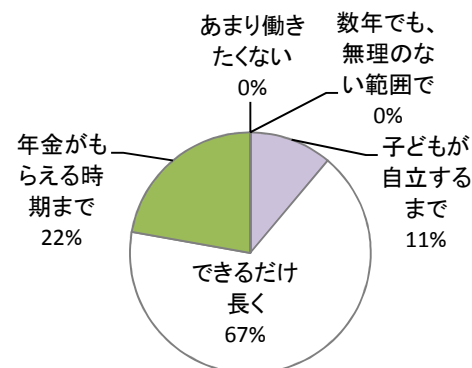
【受講後の希望就業時間(N=18)】
※外勤、在宅ワーク共 含める



【受講後の希望月収(N=18)】



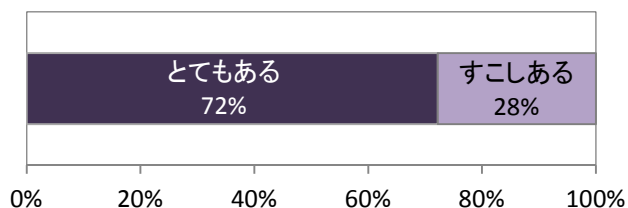
【受講後の就業継続意向(N=18)】



訓練参加が受講生に及ぼした影響と効果

- ここまでの訓練を受けてきて、変わったと思うところ（生活・知識・学習意欲・仕事意識など）があるかたずねると、「とてもある」が72%、「すこしある」28%と、回答者全員が自身に変化を感じていた。
- その内容を聞くと、「生活にメリハリがついた」「学習に対する意欲が増した」といった声のほか、OJTを経験したことで「具体的な就業のイメージがつかめた」「在宅ワーカーとして働きたい気持ちが強くなった」といったコメントが目立った。
- クラスルーム制により、在宅就業でもチームワークなど人とのコミュニケーションが大切な点を受講生が感じとっている様子がうかがえる。

■ 訓練の受講で変わったと思うところがあるか（N=18）



- とてもある
- すこしある
- どちらともいえない
- あまりない
- まったくない

■ 変化の内容（以下は自由回答の整理結果、重複該当あり）

	人数	構成比(%)
学習・就業・生活への意欲・姿勢の改善	11	61.1%
在宅就業のイメージがつかめてきた	6	33.3%
PCスキルが身につけてきた	4	22.2%
その他	4	22.2%

■ 変化の内容(自由回答)例

- 時間配分を考え、今まで以上に、毎日の生活にメリハリがついた。
知識も確実についたと思いますし、在宅ワーカーとして働きたいという気持ちがさらに強くなりました。
- 仕事の時間、訓練の時間、家事の時間、子供と過ごす時間の区切りを意識するようになり、忙しいながらも充実した日々を送らせていただいています。
またOJTを通して、在宅就業の具体的なイメージを抱くことができ、訓練終了後の自分の進歩道をより現実的に考えられるようになりました。
- 在宅ワークに対するプロ意識がわかってきました。
- 私が毎日パソコンにむかって勉強することに影響を受けたのかどうか、子供たちが自分から進んで勉強するようになった。(中略)
OJTで実際に在宅での仕事を体験し、大変ではあったがそのおもしろさと達成感はずっと在宅ワーカーという選択を大きくさせた。
ただ今の段階では在宅だけで生活していくことに経済的な不安を感じている。
- 毎日学習時間を取れるよう、時間の工夫を日々考えるようになった。
新しいことへチャレンジしようとする意識が増し、さらなるスキルアップを目指したい。
- いろいろなことができるようになった(スキルアップ)。メールのやり取りを通じての、自己研鑽。チームワークの大切さ。人を思いやる気持ち。自分の気持ちを伝えることの大切さ。
- 体力がぐんとおちた。肩こりがひどくなった。訓練中心の生活になった。
仕事の現実味がどんどん帯びてきて非常に不安。得意分野と苦手分野がはっきり分かってきた。
- 訓練は子どもがいる時間に行っていますので、以前にもましてかまえなくなり「お母さんがそれ(訓練)してなかったらいいのに…」ということがあります。